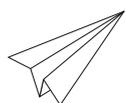


ほすびっ人



わたしであっても一つは得意だ
と思う能力は持っているものだ

フローレンス・ナイチンゲール



NO.298

地域総合医療を目指す 耕和会グループの活動の一端に触れて



聖路加国際大学
名誉教授

田代 順子

看護師
看護学博士

【今月の言葉】フローレンス・ナイチンゲール

近代看護教育の母。イギリスの看護師、
社会起業家、統計学者、看護教育学者。
病院建築でも非凡な才能を発揮した。

令和元年を迎えた5月に、人生初となる宮崎県訪問を果たしました。耕和会グループとして30余年にわたり理事長が掲げてこられた「地域の総合医療」活動の一端である、「介護老人保健施設サンヒルきよたけ」「グループホーム 太陽の丘」「特別養護老人ホーム 城ヶ崎小戸の家」を見学、翌日には改修工事中の「あおしまのいえ」までご案内いただき、心に多くのことが残りました。この見学は、耕和会の総務部長を務めておられる迫田美和子氏と、半世紀ほど前に小学校の同級生であったご縁から実現したものです。この半世紀、医療人（看護師・看護教員）として働き、1月に介護サービスを利用しながら高齢の母を在宅で看取りをし3月末に退職いたしました。宮崎県立看護大学大学院にて公開講座の講師としてお招きいただいたのを機に宮崎への訪問、長い空白を埋める時間をいただきました。

見学では、サービスを受ける施設の入居者・利用者、そのご家族をはじめ、地域の人々にとって安心できる活動をされていることが随所に感じられました。老人ホームの廊下をはじめホール等は広く、入居中の高齢者にしっかりと目が届きます。窓は広々として、お庭が見える設計になっています。加えて出入り口は感染や外出等の安全対策にも心配りがなされていました。説明からも食事や入浴設備に力を入れておられることがよくわかります。入所者は安心して生活でき、そのご家族も安心して預けられることでしょう。また改装中の「あおしまのいえ」の見学で印象深かったことは、改装にあたり施設のあった場所（墓地）も考慮し、氏神神社の神官による除霊も入念にされたということでした。過去の地域の歴史や、逝去された利用者の方々、世を去った人々の霊も含めてケアをされたことに総合医療の理念の広さを学ばされました。また、海外からの研修者も受け入れておられ地域サービスのみならず、国際的な交流にも取り組まれてきたことは、研修者のみならず研修を受け入れる職員にとっても学びのある交流ができ、耕和会グループの視野の広さに感じ入りました。

interview

看護の道へ進まれたきっかけは？

とにかく英語が好きでしたね。でもその道で経済的に自立できるのか、当時は全く想像が付きませんでした。医療人を目指していたわけではないのですが、実家に歯学部生が下宿をしていたこともあり関心がありました。家の方針としても、早いころから“女性も手に職”という感覚がありました。戦災で実家が焼けてしまい、それまで生活基盤であったベースがなくなったこと、父が第2次大戦で1年間満州に出て大変な戦争を経験したこと、男女同権の新しい体制に代わりつつあったことなど、従来の価値観が全部覆ってしまったことが、進学先を選ぶ際のモチベーションになっていたように思います。

どんな学生時代でしたか？

その時代は全寮制でしたから、24時間教育、実習もたっぷり受けるという4年間でした。助産師教育を受けていたときには、自分の受け持ちが入るとお産までずっと携わりますので、いわゆる“身体を動かしてケアをする”ということが完全に身につけていました。看護師を目指しながら保健師、助産師のトレーニングも受けられましたから、免許も取得して、もう働ける自信はありました。

超高齢社会となった今日、高齢者家族にとってそれぞれの家族の生活課題でどのようなサービスが受けられる地域であるかは、人々の終末期生活の質にかかわります。私自身、東京で仕事を継続しつつ、介護サービスを利用して、脳卒中後遺症の父を10年間、その後、心不全の母を6年間自宅で介護してきました。今年1月に在宅で看取りをいたしました。御主人さまの耕一郎理事長ともお会いでき、現在も在宅の看取りには時間を問わずに往診されていることもお聞きしました、この地域の方々は安心して生活できることだろうと思います。

今回の私の宮崎滞在は、迫田家のご家族に大変お世話になりました。特に、美和子さんの妻として母として、そして法人役員として貢献されているお姿には敬意の念を抱かずにはおられません。理事長のお話の中で、耕和会グループの次の発展のために、次世代へのバトンを渡す準備が進んでいるとのことでした。新たな令和の世になり、耕和会グループのさらなる地域貢献の発展を確認した訪問となりました。感謝と御礼

人はどうやって人として成るのか？という問い

自身が看護師や助産師であることで、昨日まで全く無関係だった人の、命の誕生、病気であれば死という、その人の一生に関わることに立ち会うんです。考えてみると不思議なことですよね。また現場では様々なお母さんに出会います。お産を前にして母親になる、おばあちゃんになる準備が全くできていない状態で、お子さんが生まれたらご家族はどんな状況になるのだろうか？と不安になることも多々ありました。産科的なことならケアプランが立てられるのだけれど、このお母さんが生み育てていけるのかということについて、具体的な手立てもイメージも持ち合わせていなかったのです。学校でこのようなことは教わらないですからね。現場に行かなきゃというよりも、もう少し勉強した方がいいのかなと感じ始めていました。それで立教大学大学院へ進み、学びの機会を得ました。

チャレンジしているところへ飛び込んで事例研究を重ねる日々

入学前に、社会学、心理学の基本的なことを聴講して、4月に入ると開業したばかりのクリニックでアルバイトを始めました。またその頃、社会精神医学のムーブメントがあって、統合失調症の方の長期的なリハビリ

りにチャレンジしている施設や、精神疾患の方の社会復帰を目指す施設でアルバイトをしたり、患者さんの母親をカウンセリングするプレ・セラピーという試みに、大学の（医療）社会福祉士の元で実習をしたり。様々な機会を通じて事例研究を重ねていきました。

ターニングポイント

大学院を出て、筑波大学病院の立ち上げに関わりまします。その後、子どもの発達に携わりたくて、小児看護学を教えるはじめました。体調を崩したのを機に九州へ戻り、聖マリア病院へ入職します。そこは地域の基幹病院として存続するために、不足しているケアを補っていくという経営方針でした。医療ケアには歴史がありフォローアップできていたのですが、看護の方の家族支援がまだできていなかったもので、退院前後の部分を病院の保健師として実施していました。医療依存の高い方たちの地域のケアができる保健師の育成について、県からも要請がありました。また、国際協力にも取り組んでいて、パキスタンの小児病院から看護教育の要請があり、私も教員としてその道に従事することになりました。すると違う文化の中で様々な問題に突き当たり疲れてしまったのが40歳でした。あと20年をどう生きるか？というときに、アメリカで勉強できる環境を模索しながら、聖路加にネットワークのあったイリノイ大学大学院に進学することになったのです。

振り返ってみると、看護という職に出会ったことには“導き”があったように感じています。その道を与えられた。自分の意思もありましたが、生きる方向性は、聖路加であったり、聖マリアであったり、キリスト教がベースにありました。自分が何かをやれると思わずに、与えられたものを十二分にやっていくと、そこに道ができてくるのかな？と思っています。若いときに、看護という具体的なミッション（職業）を与えられたということが、自分の人生を彩ってきまし、その中には多くの学びがありました。

今後のご予定は？

今までやらなかったことをやる！という目的で、旅をしようかなと考えています。この後、高千穂も訪ねる予定です。6月にはイタリアへの旅、ルネッサンス（再生）ですね。イタリア語も勉強し始めました。チャペルに行った時に宗教音楽に出会っていて、1年生のはじめに聖歌隊に入ったんです。それから50年、今も礼拝に参加しています。

最後にメッセージを

人間は、大きな長い時の流れからすれば瞬きの時間にすぎない。それを一生懸命生きるしかないですね、きっと（笑）。

たしろ・じゅんこ／福岡県出身。1972年聖路加大学衛生看護学部卒業。立教大学大学院にて社会学修士。筑波大学病院、聖マリア病院を経て、1986年に聖マリア学院短期大学助教授。JICAプロジェクト（パキスタン看護教育）で小児看護専門家として勤務。その後、イリノイ大学大学院にて看護科学研究科博士。帰国後、聖路加看護大学・聖路加国際看護大学教授。WHO/PHC看護協力研究センター事務局長。2019年より聖路加国際大学名誉教授。

耕和会 HP
Official



info@kowakai.jp



本誌へのご感想や今後取り上げてほしいテーマなど、ぜひお寄せください。個人的なご相談やご質問には応じかねますので、予めご了承ください。

発行所：社会医療法人 耕和会

発行人：迫田 耕一郎

編集責任：耕和会 広報部

〒880-0917 宮崎市城ヶ崎3-2-1

TEL:0985-51-3555 FAX:0985-51-0075

＊編集後記＊看護師、保健師、助産師として従事される一方で、国内外での看護教育、教員・管理者の育成にも尽力してこられた田代先生。お話を通じて、多岐にわたり縦横無尽のご活躍をされてきたという印象を受けましたが、ご本人曰く“全て天のお導きだったように感じられる”と、これまでの道のりを振り返りました。自らの疑問に向き合ううちに、周囲から期待や要請が次々に生まれ、それが道を切り開いていく原動力にもなっていたのではと思います。退官後の現在も、留学生や派遣研修生を対象にガダンス・レクチャーを継続されるなど、後進の育成にも余念がありません。“人生100年時代”。益々のご活躍とご健康を心から祈念いたします。

※社会医療法人とは、公的機関に準ずる機関で、営利を目的としない公益性の高い医療法人のことです。



地域医療の現場から

在宅で医療・介護を支えるケア

医師の仕事は、診察室で出会った患者様に医療を提供するだけではありません。地域で生活する人々が健やかに暮らせるよう働きかけることも大切な仕事のひとつです。

耕和会では、宮崎大学医学部の医学科5年生（実習生）を対象に、地域医療を学ぶ機会として毎月、現場学習の場を提供しています。（※宮崎市立田野病院の関連病院として受け入れを実施）今月は、在宅での療養生活をサポートする訪問診察、訪問看護の現場実習を通じて、医療・介護・福祉の連携について学びます。若い力に期待しています！

（迫田病院 内科医師/西元）



訪問看護実習の一コマ ▲

“あなたらしさを支える支援”

在宅で医療・看護を必要とする方を支援することが私たちのミッションです。入院中の患者様には、退院後に安心して療養生活をスタートできるよう、ご家族とコミュニケーションを重ねながら、生活の視点でしっかり情報共有を行います。かかりつけ医や在宅ケアを支える地域の各サービス機関と連携し、支える医療・介護を提供いたします。（所長/長瀬）

～看護師があなたのお家に伺います～

社会医療法人 耕和会
城ヶ崎訪問看護ステーション なのはな

ご相談・お問合せ

TEL (0985) 51-3555

事業所：宮崎市城ヶ崎 3-2-1

訪問看護事業：看取り、緩和ケア、認知症看護、呼吸器、小児、医療的ケア（小児・青年～老年期）（24時間対応）

